

第2回兵庫県防災会議地震対策計画専門委員会の概要

- 1 日時：平成21年12月10日（木）10:00～12:00
- 2 場所：兵庫県災害対策センター 災害対策本部室
- 3 出席者：室崎委員長、河田副委員長、沖村委員、川崎委員、楢田委員、林委員、宇田川委員

4 議事概要

(1) 第1回委員会で出された課題の整理について（報告）【資料1、2、3】

<委員指摘事項>

「わかっている断層以外の地震」の想定をM6.9にしている根拠を明確に示し、取り上げる断層について論理的に整理すること
はっきりユーザーを意識し、震度で説明する部分とテクニカルな部分を分けて報告書を整理すること
市町の所有するボーリングデータを集め、データ精度をあげていくことを今後の課題として欲しい
中山間地の液状化は、大雨が降った後には地下水位の変動が影響するので、コメントとして触れておくこと

(2) 地震被害想定項目の見直しについて（協議）【資料4、5】

<委員指摘事項>

橋が落ちなかった場合以外は全て通行可能とするのは実態に即しておらず、土砂災害や盛り土部分の被災による通行障害も考慮すること
ライフライン部分は、県からもデータを出し、関係企業からもデータをもらい、広域的に基礎となるデータベースになるよう、連携を取って実施することを検討すること
道路の評価指標は、都市部と中山間地を同じ評価手法にする必要は無い
交通やライフラインなどは被害件数を出すことが問題でなく、地震後にどれだけ都市機能が機能するかを見せる被害想定とする必要がある
地震による都市の被災により、そこから社会サービスを楽しんでいる中山間地は、被災していなくてもその影響が無視できず、その点について新しい評価を考えなければならない
市町の防災計画、防災体制の見直しに生きていくように、市町からデータや意見を取り入れ、地域被害をオリジナルで見られるスキームを作成してはどうか
高齢社会になり、負傷者は建物被害や家具の転倒によるものだけでなく、慌てて行動することにより多く発生しており、その被害算出のパラメータとして住宅建築年数を考慮すると良い（慌てる理由は、建物倒壊を恐れて、揺れた瞬間に外に逃げようとするため）
河川堤防は、復旧の優先順位を決めていく上でも必要であるため、被害想定項目には入れておくべき

(3) 兵庫県地震被害想定の基本方針について【資料6】

<委員指摘事項>

兵庫県南部地震が今起こったらどの様な被害がでるのかを、この15年の防災対策の進捗を見る上でも整理できるとよい
兵庫県南部地震により一部損壊となった建物の修繕データを考慮すべき
東南海・南海地震は不可避なので、この被害を軽減するための基礎資料を作成すべき（発生確率等を考慮すると）山崎断層帯地震を明確なターゲットとして打ち出すべき
安全な地域は無いと啓発するためにも、M6.9ぐらいで、どんなことが起きるか、それぞれの地域に認識してもらうとよい
国の想定手法だけでなく、県内の研究機関等での成果を取り入れた被害想定を意識して欲しい
固定値となっている被害想定のパラメータについて、住民の防災意識を訓練実施数で定義し、減災効果を検証できるような手法を考えていってはどうか

以上